

化学工学会会長メッセージ

(株式会社 IHI エグゼクティブ・フェロー) 石戸 利典



「化学工学で新しい社会づくりを」

(1) 化学工学会会長としてのメッセージ

1990年代以降グローバルな経済競争、技術開発競争は厳しさを増し且つ常態となっています。それから四半世紀、現在では地球環境問題が待ったなしの状況となり、さらに新型コロナウイルス感染拡大で感染症に対しても臨戦態勢となっています。

工学（エンジニアリング）には元々社会の基盤、産業の基盤を作るという意味があります。化学工学はこれまでまさに幅広く社会・産業を支えて来ていますが、今人類がそして我が国が臨戦態勢のもと「脱炭素社会」などの新たな社会づくりに挑戦するとき、化学工学はその主役の一人とならねばなりません。その決意も込めて、化学工学会では今年の札幌でのアジア太平洋化学工学連合会議において札幌宣言を採択し、その中で「Efficiency から Sufficiency へ」というコンセプトを掲げました。

広く深い化学の知恵を追求し、産・学・官・民（市民、地域）の知恵を合わせて、化学工学会は新しい社会づくり、サステイナブルな社会づくりに積極的に取り組んでいきます。

(2) 化学工学会の使命と現状の課題

(3) 現学会は蝸壺化、閉塞感はないか、最新研究・教育の場となりえるか

使命については(1)項のメッセージの中に記した通りです。一方で現状は大学も産業側も過渡期にあります。産業側では化学プラント中心から、より広く、深く「化学」を使って高付加価値の素材、製品を生み出す方向となり、大学ではこの領域の広がり为先導し対応する一方で、学生に化学工学の基本を習得してもらうコースの維持が難しくなり、共に人材確保・育成の面で課題を抱えています。以上の状況を踏まえ化学工学会では以下の3つの視点で施策を掲げ、具体的な活動に取り組んでいます。

- ① 社会と化学工学会 : 「SDGs と化学工学」「システム全体を構想し社会実装を」
- ② 人材育成、人材活用 : 「新たな化学工学教科書の刊行」「ダイバーシティ推進」
- ③ イノベーションと社会 : 「脱炭素化に向けた産業構造変革」「AI,DX の本格導入」

(4) 政策提言・要望

(5) 化学連合に期待すること

学会の原点は「思いや志を同じくする人たちの集まり」です。大学の研究者と企業の技術者が新しい社会づくりについて一緒に議論する場を増やし、そして優秀な若者が参画したくなる活動、研究を興して行きましょう。